



年 組 名前

道新 ワークシート

ブドウ栽培 ICT駆使

北海道ワイン

【仁木】北海道ワイン(小樽)が直轄農場運営会社として昨年4月に設立した「後志ヴィンヤード」は、後志管内仁木町内のブドウ畑で苗の定植を始めた。来春からは周辺農家にも公開する形で、情報通信技術(ICT)を駆使して除草や農薬散布などを省力化するスマート農業の実証実験も始める予定だ。

同社は新ブランドの道産ワインを4年後をめどに初



ワインブドウの苗の定植が進む後志ヴィンヤード＝3日

出荷することを目指し、仁木町内に4・2畝の遊休地を昨年取得。定植は5月27日から始まり、ピノノワールなど3品種計6600本を有機栽培して2024年秋の収穫を目指す。

スマート農業の実証実験には、北大大学院農学研究の野口伸教授らが参加。ゴルフカートに搭載した電子ロボットを、全地球衛星測位システム(GNSS)を用いて遠隔や自動操縦で畑を行き来できるようにする。ロボットの人工知能(AI)に熟練農家の知識を取り込むことでの確な剪定を可能にし、天気予報と連動して草を刈りブドウの生育を支援する。

同社は既に、空知管内浦臼町にある鶴沼のワイナリーなどで実証実験を行っているが、後志ヴィンヤードは「スマート農業のショールーム」(寫村公宏社長)と位置付け、見学できるようにする。スマート農業技術の構築を進め、外部の農家から農作業の委託を受けることも検討し、将来的に技術の海外輸出も視野に入れているという。(松嶋加奈)

2021年6月4日(金)朝刊 全道版 11ページ

- ①情報通信技術(ICT)を活用した農業を何農業と言いますか。
- ②今回の実証実験では、位置情報や熟練農家の知識などの情報の他に、どんな情報を連動させてブドウを生育させようとしていますか。
- ③このような実証実験を積み重ねていくと、将来どんな農業ができると想像できますか。あなたの考えを書きましょう。